



# 2014 北海道トレセン U-13 エリートキャンプ

【報告者】 田中 拓也  
(北海道トレセン U-13 スタッフ)

2014 年 9 月 26 日～28 日

会場: 札幌市東雁来公園人工芝サッカー場

公益財団法人  
北海道サッカー協会



## 1 事業の概要

9月27日(土)・28日(日)の2日間、札幌市東雁来公園人工芝サッカー場で北海道トレセンU-14 秋季交流大会が行われた。

各ブロックのトレセンに所属するU-14 選手で構成された5チームと北海道トレセンU-13 エリートを含んだ6チームが2日間に渡り予選リーグと順位決定リーグを行う大会。

北海道トレセン U-13 エリートは16名(FP14名・GK2名)の選手を前日に招集し、トレーニングを経て大会に臨んだ。



## 2 スケジュール

前日 TR (9月26日) テーマ『守備』

1日目 (9月27日)

予選B ブロック (1位で上位リーグ進出)

vs 道北 (1-1) vs 道東 (2-0)

2日目 (9月28日)

上位リーグ (全体2位)

vs 道央 (2-1) vs 札幌 (1-2)

### メンバー

|        |                   |       |
|--------|-------------------|-------|
| 安田 武士輝 | 田中 光太             | 水口 飛呂 |
| 得能 草生  | 坂下 桂悟             | 鈴木 雄万 |
| 大澤 拓也  | 小山田 凌             | 湯浅 観多 |
| 石黒 尚   | (以上、コンサドーレ札幌U-15) |       |
| 国田 柊平  | (アンフィニ MAKI FC)   |       |
| 藤村 哉大  | (栗山中学校)           |       |
| 前田 陸王  | (石狩FC)            |       |
| 中野 歩夢  | (アスクラロ)           |       |
| 今野 恭大  | (根室光洋中学校)         |       |

北海道での一貫指導をブロックトレセンから！！

日本代表とオリンピック代表を2015年までに輩出する！！

和歌山国体(2015)までには優勝を！！

### 3 大会全般について

U-13 エリートにとっては、カテゴリーアップの選手と対峙することとなる。身体能力（身長・スピード・パワー）が上回る選手とのゲーム環境で、選手ひとり一人が通用することとしないことを肌で感じる良い機会となった。北海道の選手がナショナルトレセンや全国大会などで、他地域のレベルの高い選手とプレーしたときに感じるギャップを北海道でも体感できたことは、大変有意義なことだと思う。

前日ミーティングで選手たちが立てた目標は「優勝」。

目標達成のために必要なメンタリティをチームで確認し試合に臨んだ。闘う姿勢や勝利への闘志。向上心、プライドをもって臨むこと。そして、サッカーだけではなく、オフザピッチの場面でもトレセンの選手として何をすべきかを考え行動し、自立することを要求した。

3日間を通して、選手たちはサッカー選手として何をすべきかを常に考え、積極的に前向きに臨むことが出来たと感じる。



### 4 成果と課題

〈成果〉

前日トレーニングでは、8月に行われた後期キャンプの積み上げとして守備をテーマに行った。ボールホルダーに対しての、アプローチ（スピードや角度）や、グループで連動してボールを奪うことをトレーニングの中で細かく修正していき、チームでボール奪うことを確認。選手たちは2日間、様々な場面でコミュニケーションをとりゲームを経験する毎に成長していった。1対1で勝てない選手に対しても数的優位をつくり、自分たちが目指すディフェンスをすることができた。

〈課題〉

4試合で6得点という記録ではあるが、決定機を決めきれない場面やアタッキングサードでの創造性について物足りなさを感じた。また、攻撃の優先順位意識の希薄さも感じた。ボールを失わないように前へ運んでいき、相手の背後を狙いながら崩してフィニッシュへとつなげられるよう、今後は「ゴール前の攻防」、「フィニッシュ」をテーマにしたトレーニングを取り入れていく必要があると感じた。

シュート精度（受ける前のスペース作りや苦手の足の克服など）は一朝一夕で身につくものではない。日頃の練習から意識して取り組むことが必要である。

## 5 今後に向けて

11月末にナショナルトレセン地域対抗戦が大阪で開催され、U13 エリートとして12名（FP11名 GK1名）の選手が参加することとなる。これまで行われてきたエリートキャンプや自チームで積み上げてきたものを発揮し、自分たちの実力を遺憾なく発揮してきてほしい。また、そこで得た経験を北海道に持ち帰り、自チームやトレセン活動で還元し、北海道全体のレベルアップへつなげてほしいと思っている。

今回、選考されなかった選手に関しても、1月のつどーむでのU-13トレセン交流大会でさらに良いパフォーマンスを発揮し、大きく成長した姿を見せてくれることを期待している。

最後になりますが、今回召集に対してご協力してくださった関係者の皆さまに、この場を借りて感謝申し上げます。今後もどうぞよろしくお願いたします。

